

山西小学校便り



山西っ子

《なかよく・かしこく・たくましく》



「夕焼けの翌日は晴れ」と言われます。天気の良い学習を思い出しました。

令和2年10月20日(火) no.28 文責：上田

聞く力・見る力は、努力そのもの

学校生活の中での見ること・聞くことを通した学びについて考えてみたいと思います。

先週配付した通知表で担任からの所見に「聞く力をつけてほしい」とコメントが記された子どもたちがいました。先生の話だけでなく、友達の発表などを「聞く力」、教科書や板書などを「見る力」が授業では必要になります。

では、「聞く力」とはどんな力なのかです。例えば、先生から「教科書の28ページを開けて3番の問題をやります。」と指示されたとします。教科書の28ページを開けたとしても何番の問題か聞き取れてなければ、キョロキョロしたりボーッとしたりすることになります。また、先生の説明が終わるか終わらないうちに「はい、はい」と連呼すると何が問われているかが分からず、まったく違ったことを答えたりしてしまうことにもなります。「見る力」が弱いと、板書をノートに写すとどこまで書いたかが分からなくなったり、教科書を音読すると文字や行を飛ばしたりすることにもなります。「聞く力」「見る力」、そして「聞く力」や「見る力」を制御する『注意力』『集中力』が学習では必要になります。この『注意力』『集中力』こそ、注意を向けるという努力と言い換えることができます。

このような授業における努力をしなくなると2つの困ったことが生じます。1つは成功体験がないため自尊心の低下につながるようになります。もう1つは自分以外の人の努力が分からず、誰かが一生懸命に努力していることを軽く考えてしまい対人関係がうまくつけないことにもつながります。

聞くこと・見ること、そしてそこで求められる注意力・集中力は、努力する姿として身に付けておかななくてはならない大切な資質です。学校では、姿勢を保つことや机上の整理をすること、発表する子に体を向けることなど、いわゆる、学習の構えづくりを子どもたちが身に付けるよう指導します。これらは細かいことのようにとられがちですが、実は、聞くこと・見ることを通して注意を向けるための大切な学習訓練だと言えます。

家庭学習の際、子どもが集中を切らした状態が見られたら、見ること・聞くことを丁寧に指導いただければと思います。根気強さが求められるのは、私たち大人だと言えます。



▲友達の発表を「目・耳・へそ」を向けて聞き入っています。